



がん診療病院連携研修 研修者募集説明会

令和4年2月3日、19日
日本臨床腫瘍薬学会 実地研修委員会

* 実施要綱・コアカリキュラムをお手元にご用意の上、ご参加ください

1

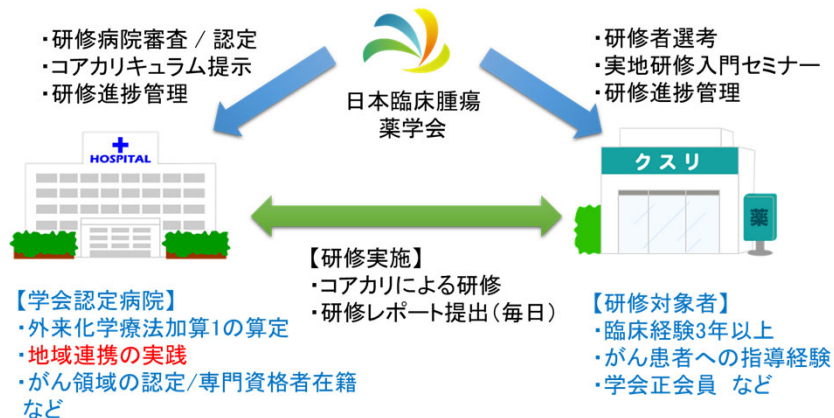


研修の目的

本研修は、がんの専門的な知識や技能に加え、臨床経験を修得し、**病院と緊密に連携してがん薬物療法に対応できる薬局薬剤師を養成することにより**、外来がん治療を安全・有効に施行するとともに、**地域がん医療において、患者とその家族をトータルサポートできることを目的とする**

2

がん診療病院連携研修概要



3

がん診療病院連携研修実施状況

①モデル研修: 令和3年1月18日～3月2日(全30日連続)

- ・研修登録病院数: 51施設
- ・研修修了者: 34名(応募者: 48名)
- ・研修修了6か月後後評価アンケート実施中

②令和3年第1期: 令和3年5月1日～令和4年4月30日

- ・研修形態: 30日連続研修または通年研修(週1回など)
- ・認定研修病院: 109病院(受入総数: 261名)
- ・研修応募者: 153名
- ・研修開始者: 122名(決定率: 80%)

4

③令和3年第2期:令和3年11月1日～令和4年10月31日

- ・研修形態:30日連続研修または通年研修(週1回など)
- ・認定研修病院:130病院(受入総数:183名)
- ・研修応募者:108名
- ・研修開始者:76名(決定率:70%)

5

研修病院の状況

現在、160施設が研修病院となりました

	薬局会員数	研修施設数		薬局会員数	研修施設数		薬局会員数	研修施設数
北海道	77	9	富山県	3	0	岡山県	15	5
青森県	9	1	石川県	13	2	広島県	25	7
秋田県	16	3	福井県	3	0	山口県	16	1
岩手県	10	1	長野県	24	5	徳島県	1	1
宮城県	22	4	岐阜県	18	1	香川県	12	1
山形県	8	2	静岡県	23	1	愛媛県	14	2
福島県	30	3	愛知県	62	5	高知県	4	4
茨城県	29	3	三重県	20	4	福岡県	77	6
栃木県	19	2	滋賀県	18	3	佐賀県	18	1
群馬県	14	3	京都府	31	2	長崎県	17	2
埼玉県	80	9	大阪府	85	10	熊本県	19	1
千葉県	66	5	兵庫県	61	6	大分県	7	4
東京都	166	15	奈良県	8	0	宮崎県	15	1
神奈川県	100	13	和歌山県	4	2	鹿児島県	23	6
山梨県	6	0	鳥取県	5	1	沖縄県	18	1
新潟県	10	0	島根県	5	2	無所属		
合計							1,327	160

6

令和4年研修事業の概要

研修者:JASPO正会員の薬局勤務薬剤師

研修施設:JASPO認定研修病院(募集要項および研修要綱参照)

研修期間:第1期:令和4年5月9日～令和5年4月30日

第2期:令和4年11月1日～令和5年10月30日

研修形態:①連続研修:期間内の特定の期間に連続して30日

②通年研修:期間内に計30日(30単位)終了する

研修生の研修費用:137,500円(税込)

研修施設への支払い(1名):研修費用11万円(税込)

7

連続研修

病院の休日を除いた30日間連続研修

通年研修

令和4年5月9日～令和5年4月30日の期間で30単位取得する。

1単位:研修病院の業務時間1日 0.5単位:研修病院の業務時間半日

* 半日に満たない研修は単位にカウントできない

* 原則、週0.5単位以上の研修が望ましい(病院の長期休暇日を除く)

8

研修施設（2月初旬公開予定）



がん診療病院連携研修病院一覧

※必ず各施設の **PDF** 特記事項 を確認の上 申込みしてください。

都道府県	研修病院候補	特記事項
1 北海道	KKR札幌医療センター	PDF 特記事項
2	手稲溪仁会病院	PDF 特記事項
3	NHO北海道がんセンター	PDF 特記事項
4 岩手	岩手県立大船渡病院	PDF 特記事項
5 宮城	宮城県立がんセンター	PDF 特記事項
6 茨城	土浦協同病院	PDF 特記事項
7 群馬	NHO渋川医療センター	PDF 特記事項
8 栃木	栃木県立がんセンター	PDF 特記事項
9	埼玉医科大学病院	PDF 特記事項
10 埼玉	埼玉医科大学国際医療センター	PDF 特記事項

申込み前に必ず特記事項をご確認ください

研修施設概要



日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院認定要件（必須）

当院は、下記の通り、一般社団法人日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院の必要要件を満たしています。

1. 日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院（ヤゲル事業）の必要要件

要件を満たす	要件を満たす
1) ヤゲル事業のみ：2021年1月18日～3月22日の研修が現時点で可能であること※1	☒
2) 下記に示すいずれかの認定薬剤師が病院に2名以上在籍すること※2	☒
※日本臨床腫瘍学会がん診療認定薬剤師、日本診療学会がん診療認定薬剤師、日本診療学会がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会がん薬剤師認定薬剤師	
3) 2)のうち、1名以上は、研修指導薬剤師であること	☒
4) 外来化学療法室において、薬剤師が患者等を指導できること	☒
5) 緩和ケアチームにおいて、薬剤師がその業務に従事していること	☒
6) がん患者の症例カンファレンスに薬剤師が参加していること	☒
7) 院内他部署を横断しており、地方協定調整部など連携し、患者の治療に当たっていること（非がん部でのレジデント制度、診療科間、トレーニングレポート記載など）	☒
8) 臨床腫瘍学およびがん薬物治療を指導するのに十分な教育を兼ね備えた医師が在籍していること（学会が認定する専門医である必要はない）	☒
9) 以下の施設基準をすべて満たしていること	☒
・ 外来化学療法加算 ・ 薬剤管理加算 ・ 無償製剤処理科1	

注1 上記の各要件について、適合している場合には右欄の□に「レ印（チェック）」を付してください。

※1：申請時点での状況で異なります。今後、COVID-19流行状況等で病院として受入れが困難になった場合は、研修期間の繰返しが可能です。なお、研修期間30単位（30日間）の変更はできません。

※2：1名が複数の資格を有している場合でも、1名とみなします。なお、当院の間、認定資格者がない病院であっても、日本臨床腫瘍学会が十分な研修体制を整えていると判断した場合は、認定研修病院として認定することが可能です。

必須要件のため基本的には、全施設☑が入っています。

研修施設概要



日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院認定要件（施設基準等）

当院は、日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院の施設基準等の届出状況は以下の通りです

1. 日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院第6項研修病院の項目の施設基準等

日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院施設要件認定状況	届出している
1) がん診療連携拠点病院加算	☒
2) がん患者指導管理科ハ	☒
3) 連携化学療法加算	☒
4) 病棟薬剤業務実施加算	☒
5) 抗悪性腫瘍剤他方管理加算	☒
6) 特定薬剤治療管理科	☒
7) 外来緩和ケア管理科	☒
8) 緩和ケア病棟入院料又は緩和ケア診療加算	☒

注1 上記の施設基準等について、届出している場合には右欄の□に「レ印（チェック）」を付してください。本施設基準等は、研修生が研修病院を選ぶ際の参考とするために研修生募集時に公表いたします。なお、日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院の指定において必須要件ではありません。

任意要件のため、研修施設により☑が異なります。

例えば、2),3)は研修施設が現状で、外来化学療法における薬剤師の関与の状況を知る目安になります

特記事項



・該当する場合はチェックを入れてください

COVID-19 の関係で県境を越えて研修者の受け入れはできません	☐
同一県内の薬局に勤務する薬剤師を優先します	☐

【特記事項】 研修者募集に際して、研修施設として特記事項がある場合は記載してください。

【以下、すべての条件を満たしている方が研修対象となりますので、ご了承ください】

- ・コロナワクチン接種（研修時期によって国が推奨している医療者の接種回数）を行っていること
- ・麻疹、風疹、水痘帯状疱疹、ムンプス、HBs 抗体の検査結果を事前に提出し、必要に応じてワクチン接種を行うこと
- ・個人情報取り扱いに関する誓約書を事前に提出いただけること

【研修特徴】

当院は、がん診療連携拠点病院およびがんゲノム医療連携病院に指定されており、小児がんを除くほぼすべてののがん種の治療を行っています。研修は、実践型としており、講義研修はほぼなく、入院、外来ともに多くの患者さんの指導を通じて、JASPO のコアカリキュラムを満たしていきますので、自ら積極的に研修いただける方の参加を希望します。希望があれば、腫瘍内科、がんゲノム外来の見学や緩和ケアチーム、リエゾンチーム、NST への同行も可能です。

・コロナ禍の状況を踏まえて、他県からの研修を受け入れない病院が多くあります。

★特記事項に記載されている内容は、選考時に考慮しています。

申請書類（様式1）



様式1
研修申請者の資質に関する証明書

（一社）日本臨床腫瘍学会
理事長 殿

研修申請者氏名 _____

上記の者は、外來がん治療認定薬剤師を目指す意思があり（またはすでに取得しており）、がん患者に対する臨床指導（薬学的管理を含む）や薬物治療モニタリングの経験を有し、研修に対する高い意欲があることを証明します。

西暦 年 月 日

施設名 _____

責任者役職 _____

責任者（署名） _____

研修が、研修者・研修施設の両方にとって実りあるものにするために入れています。

研修を実施するための基本的知識、研修に対する意欲を研修者の施設責任者が担保するために入れています。

13

申請書類（様式2）



（一社）日本臨床腫瘍学会 理事長 殿
確認事項（研修者用）

私は、すべての事項に同意した上で、研修に参加をします。
※文書を確認の上、すべての項目に記入すること。

☐ QW19-19の状況により研修前、研修開始後、研修期間の都合で研修中止または延期の可能性があること。

☐ QW19-19の状況により研修実施に影響が出た場合は、日本臨床腫瘍学会（以下、学会）と研修機関で調整を行うこと。

☐ 研修期間によっては、受け入れの要件として、各種感染症の抗体検査結果や個人防護具着用の要約書などの提出が必要となること。また、研修機関から必要とされる書類の提出に遅いことと研修が中止になった場合の不利益は、研修機関、学会は責任を負わないこと。

☐ 研修者は、原則、研修中すべての研修を修得する必要があること。ただし、やむを得ず欠席しなくてはならない場合は、その期間を欠席、研修機関、学会に報告すること。欠席した研修者に対して修得を認めない場合は、研修機関と学会で協議の上決定する。なお、欠席した研修者に対して、追加研修が適切に修得できなかったと判断した場合には、追加研修を修得しなくては研修が成立と見做らないこと。また、追加研修は、研修機関から追加の研修費用を請求する必要があること。

☐ 研修機関決定後に研修者または勤務する施設の都合以外で研修が中止になった場合に限り、研修者には、所定の金額を返金すること。返金額は、状況等に鑑み学会が判断すること。

☐ 自己都合による研修機関決定後の研修中止は、決別同意時に返金額が下がること。

☐ 研修中の事故や感染症患者などは、原則、研修機関および学会は責任を負わないこと。

☐ 研修中に研修機関に損害を与えた場合、学会は一切の責任を負わないこと。必要に応じて、事前に保険等に加入することを推奨すること。

☐ その他、研修機関や学会から研修者に対して要望があった場合は、その内容に真摯に対応すること。

☐ 研修機関の同意で研修機関が関係と認められる事件が発生した場合は、研修者は学会に申し出る権利があること。

☐ 外來がん治療認定（専門）薬剤師取得を目指す、高い意欲をもって研修に参加すること。

会期 年 月 日
研修者（署名） _____ 必要者は、任意で氏名を記載してください。

14

研修コアカリキュラム



目標A: がん医療における薬剤師の役割を理解し、医師、看護師、栄養士などの医療従事者との連携の必要性を理解できる。

目標B: 患者に良質かつ安全ながん薬物療法を提供するため、外来化学療法中の個々の患者の状態を的確に把握するとともに、抗がん薬の種類、投与量、投与期間等の設定・変更や支持療法の選定などを医師に提案できる。

目標C: 外来がん薬物療法における病院と薬局の連携システムを理解し、自施設での連携の質的向上に貢献できる。

15

研修コアカリキュラム



目標D: 曝露対策の必要な抗がん薬の取扱いなどに関する知識を修得し、自施設の曝露対策に活用することができる。

目標E: 患者や家族などからのがん薬物療法に関する相談に、わかりやすい言葉で説明できる。

目標F: 国内外のがん医療に関する最新の情報収集を行い、活用することができる。

16

研修終了までに修得すべき専門的知識



研修者は、この実地研修およびこの実地研修および別の講義研修の受講等の自己研鑽を通じて、乳がん、肺がん、胃がん、大腸がんおよび血液がんについて、以下の内容を修得するものとする。なお、**各項目について、研修病院での講義研修の実施を必須とするものではない。**

実地研修入門セミナー
＋（各種JASPOセミナー）

コアカリキュラムによる
実地研修

専門的知識の修得

17

実地研修入門セミナー



研修要綱で記載している5がん種（＋α）は事前に研修者がe-ラーニングで学修する。JASPOスタートアップセミナーと同レベルの研修。受講しないと研修が開始できない。

* 研修病院の指導薬剤師もe-ラーニング閲覧可能

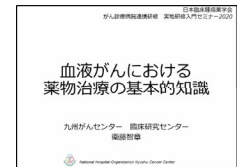
①肺がん ⑥悪性リンパ腫・多発性骨髄腫

②乳がん ⑦肝胆膵がん

③大腸がん ⑧オンコロジーエマーゼンシー

④胃がん

⑤白血病 ※赤字は令和4年追加コンテンツ



18

研修記録管理



①研修者は、研修日に所定の研修記録を記載し、研修管理サイトにアップする。研修記録のコアカリキュラム履修は、指導薬剤師と協議の上、選択する。

がん診療病院連携研修 研修記録

氏名	東京 太郎	研修病院	昭和医科大学病院																																								
施設責任者	神谷川 次郎	研修日	2021年1月18日																																								
該当する研修項目を選択	<table border="1"> <tr> <td>ア</td><td>1</td><td>イ</td><td>0</td><td>ウ</td><td>0</td><td>エ</td><td>0</td><td>オ</td><td>0</td> </tr> <tr> <td>カ</td><td>0</td><td>キ</td><td>1</td><td>ク</td><td>0</td><td>ケ</td><td>0</td><td>コ</td><td>0</td> </tr> <tr> <td>サ</td><td>0</td><td>シ</td><td>0</td><td>ス</td><td>0</td><td>セ</td><td>0</td><td>ソ</td><td>0</td> </tr> <tr> <td>タ</td><td>0</td><td>チ</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>			ア	1	イ	0	ウ	0	エ	0	オ	0	カ	0	キ	1	ク	0	ケ	0	コ	0	サ	0	シ	0	ス	0	セ	0	ソ	0	タ	0	チ	0						
ア	1	イ	0	ウ	0	エ	0	オ	0																																		
カ	0	キ	1	ク	0	ケ	0	コ	0																																		
サ	0	シ	0	ス	0	セ	0	ソ	0																																		
タ	0	チ	0																																								
その日に研修した項目は「1」、研修していない項目は「0」																																											
研修内容																																											
午前中は、●●について説明を受けた。.....																																											

がん診療病院連携研修総合記録

氏名	東京 太郎	研修病院	昭和医科大学病院
出席日数		欠席日数	
研修内容（要録）			
ア) 研修病院で実施される診療科カンファレンス、カンサーボードなどに参加し、がん治療における薬剤師の役割を学ぶ。(目標A 見学・知識)	1		
イ) 臨床研修、がん相談など他職種が行う患者相談の機会を見学することが望ましい。(目標A 見学)	0		
ウ) 研修病院におけるレジメン管理の方法、運用を学ぶ。なお、レジメン審査を行う委員会等へ関係することが望ましい。(目標B 知識・技能)	0		
エ) がん患者の治療全体を把握した上で、がん薬物療法に用いられる薬剤の特性に応じて、継続的に患者の状況を適切にモニタリングする。(目標B 知識・技能)	0		
オ) 腎機能、肝機能、血液学的検査などの指標に基づいて、抗がん剤の種類、投与量、投与期間等の変更を検討する。(目標B 知識・技能)	0		
カ) がんまたはがん化学療法による様々な症状に対して、支持療法を検討する。(目標B 知識・技能)	0		
キ) がん再発予防に関する薬剤の選択や投与経路などについて検討する。(目標B 知識・技能)	1		

19

今後の流れ



1) 第1期募集

2021年12月13日(月)～2022年1月14日(金)：研修病院募集

2022年1月下旬～2月上旬：研修病院認定および公開

2022年2月7日(月)～3月4日(金)：研修者募集期間

2022年3月中旬～下旬：研修者決定

2022年5月9日(月)以降：随時研修開始

(研修病院が提示または研修者と協議したスケジュールで開始)

20



学会からの周知事項

～ 研修病院からいただいたご意見 ～



21

多くの事案が研修病院と研修者の所属施設のコミュニケーションエラーからスタートしている



研修開始前に研修者、研修者所属施設責任者、研修病院担当者の面談（web等）を推奨



研修病院薬剤部門責任者 ⇔ 研修者所属施設責任者

22



ここからは、Q&A になります



23

研修は所属薬局の近隣と遠方のどちらがよいですか？



地域連携が進んでいない場合は、近隣病院の方がメリットがあるかもしれません。逆にすでにトレーシングレポートなどの連携をしている場合は、処方せんを普段応需していない病院での研修がとても有用だったとの意見も多数でています。

24

連続研修と通年研修はどちらがよいでしょうか？



それぞれの研修をされた方は、いずれも自分が行った研修スタイルをすすめる方が大半です。薬局の勤務体制や病院の受入れ体制で参加できる研修スタイルが決まることも多いと思いますが、いずれの研修スタイルも有益と考えます。病棟研修や院内のチーム医療等への参加を希望する場合は連続研修、外来化学療法で長期的に患者をフォローしたい場合は、通年研修がおすすめです。

25

病院と薬局で独自に契約することは可能ですか？



がん診療病院連携研修として認定されるのは、学会で実施する研修のみとなります。

研修カリキュラムが、JASPOの研修カリキュラムに沿って実施された場合でも学会から修了証を発行することはできません。

26

希望者が多数いた場合の選考基準はありますか？



申請書に記載いただいた情報をもとに、学会で定めた選考基準に従って公平に行います。

- ・日本臨床腫瘍学会外来がん治療認定薬剤師取得の有無
- ・過去の本研修事業申込歴（研修が成立しなかった場合）
- ・日本臨床腫瘍薬学会入会からの期間

27

コロナの影響で、研修病院決定後に研修が受けられない可能性はありますか？



今後の感染拡大状況によっては、研修病院決定後に研修が受けられない可能性があります。

①研修病院が受入れ困難になった場合

研修者の希望を踏まえつつ、研修施設と学会で調整します。状況によっては、次期以降の研修に振替えの相談をします。

②研修者が新型コロナに感染した場合

研修病院の指示に従ってもらいます。研修開始前の場合は、原則、研修は一旦中止とし、次期以降の研修に再申込していただきます。

28

コロナの影響で、研修開始後に中断となった場合はどうなりますか？

原則、研修可能となった時点で再開とします。

再開できない場合や研修者の都合で研修継続が困難になった場合は、個別に対応します。

29

研修者の都合で欠席した場合は、どうなりますか？

30日間（30単位）を修了を原則とします。

ただし、**欠席理由がやむを得なく（研修者の自己都合でない）、研修病院がすべてのコアカリキュラムを修了していると判断した場合は**、学会で検討の上、研修修了証を発行します。

なお、追加の研修が必要となった場合の対応は学会で調整します。

* 欠席理由の正当性は学会が個別に判断します。

30

最後に

がん診療病院連携研修は、がん患者さんが安心して治療を受けられる環境を整備する上で重要な研修と考えています。年間200人程度の薬局薬剤師の皆さんに研修を受けていただきたいと考えています。1人でも多くの方の研修参加をお待ちしております。



31